

龍潭通りのまちづくり

琉球王国の政治や外交の中心地であった首里城。龍潭通り周辺は、その城下町として、王族や重臣の屋敷、寺院や公共施設が建ち並び首里の中心地でした。そして今また首里のシンボルロードとして新しく生まれ変わろうとしています。

町並みのイメージ

龍潭通りは、沖縄県による道路の拡幅整備にあわせて、那覇市の景観条例により、住宅に関する景観基準が設定されています。地域住民や行政が協力しながら、美しく、過ごしやすい街並みにすることが、これからの課題です。

都市景観形成のイメージ



赤瓦による首里の風景の演出 屋根の高さは、首里城からの眺めを考慮した設定になっています。また、対面道路から赤瓦が見える設定でもあります。



建物の高さは、軒高さが12m以下で、絶対高さは15m以下です。赤瓦の勾配屋根にすることで、歴史的風景に調和を図ります。



壁面後退による雨端空間やグリーンベルトによる豊かなまちなみを演出 壁面後退は、道路境界から建物の外壁、又はこれに代わる柱面を後退させることで、雨端やグリーンベルト・奥行きの変化など、まちなみに豊かな表情を与えやすくなります。



歴史的風景に調和する、ベージュ・アイボリー系の壁の色 90cm以上の壁面後退。ただし奥行きにゆとりが無い場合は、最低基準を45cmとして、奥行き1割以上の後退とします。

通りのポイント

龍潭通りの整備は、現在、山川交差点から県立博物館までの区間の整備が進められています。また、今年の秋頃から、鳥堀交差点まで事業区間を延伸する予定です。首里らしい景観や歴史資源を活かすことが、これからの龍潭通りのポイントです。

通りが祭りの舞台へ

首里文化祭で龍潭通りを祭りの舞台として使えるように、歩道と車道の段差をなくします。

世持橋が甦る

世持橋は小さな石造りのアーチ橋です。橋本体は現存しますが、欄干は沖繩戦でほとんど破壊されました。博物館に残っている資料を確認しながら欄干を再現し、かつての世持橋が甦ります。



世持橋イメージイラスト

電柱・電線が消える

道路拡幅に併せ、新しい歩道下に電線共同溝を整備し、電線類を地中化します。

首里らしい街並みの再現

那覇市が指定した景観形成基準に基づき、車道は石灰岩風のカラーアスファルト、歩道は石灰岩石張りの舗装を行い、首里らしい街並みを再現します。

「昔のものは宝物。」



金城良次さん オフィスリョウ次代表取締役

県立芸術大学に隣接する「琉球茶房あしひうなあ」は、王国時代の美里御殿(ミサトウダウン)という上級士族の屋敷跡にあり、見事な庭園が残っています。「ゆったりとした時間が流れて、屋敷に守られている感じがする」と、経営者である金城良次さんは旧家跡に店を構えた感想を語ります。

金城さんは、首里出身で、市内に複数の飲食店を経営。二〇〇一年には、新横浜のライオン博物館へ出店し、沖縄の食材を活かした新ラーメン「琉球新麺」を開発したことで有名です。昨年からは、七月八日の「なはの日」のイベント企画として、戦前からの国際通りの名物だった「井筒屋」のそばを復元しています。「昔のものは我々にとっては宝物。麺打ちや仕込みは手作業でしたが、伝説のそばを復元するなんて夢があっという間です。よね」と笑顔で語ります。

新しい取り組みと同時に、沖縄の伝統的な食文化や雰囲気大事にする金城さん。その屈託ない語り、おいしい料理と共に私たちに元気を与えてくれます。

イベントによる地域活性化

綾門大綱復興・ゆいフェスティバル



実行委員会事務局 石崎雅彦さん

八月六日、首里地域の活性化を目的に「第二回綾門大綱復興・ゆいフェスティバル」が県立芸術大学グラウンドを中心に開催されました。「綾門大綱引」とは、国王即位の慶事などに引かれた全長二百十六メートルにも及ぶ特別な大綱で二八九八年まで行われたもの。実行委員会では、首里城復元十五周年にあたる二〇〇七年までに、当時の大綱の復興をめざしています。

天候不良のため、前半の伝統芸能は、首里公民館へ変更となりましたが、メインイベントでは、グラウンドまで参加者全員が引かれました。綱は那覇市真嘉比より提供されたもので、綱作りから綱引きまで、多くの人々の手で伝えられてきたことになりました。

綱に関わる活動は、当歳町青年会が中心となりました。来年は、大綱復興にむけてのさらなるスケールアップを目指します。「大綱復興は、地域づくりの素材のひとつ。イベントを通じて様々な活動につながれば良いと思う。首里の村綱復興の可能性も期待できる」と、今後の豊富を語る実行委員会事務局の石崎さん。熱いイベントが来年盛り上げていくことでしよう。



フィナーレの旗頭



綱引き

御祝列車でGO!

当歳町子供会では、七月三日、地域のお年寄りの長寿を祝うため、モノレール二両を貸し切り、首里・那覇空港駅間、往復約一時間の「御祝(グスージ)列車」を走らせました。車内では祝いの舞踊などを披露し、大いに賑わいました。

この企画は、ゆいフェスティバルの取り組みの中で発案され、当歳町自治会や青年会、りゅうたん通り商興会、沖縄都市モノレールが協力。様々なアイデアで、地域がひとつにまとまりました。



御祝列車で盛り上がる人々

▲ 文化財 P 駐車場 ● 店舗 ♀ バス停

道路整備中区間(～H17年度予定)

今後整備の区間(H17年度～)

■ 歩行時間
首里駅→龍潭：約15分
首里駅→守礼門：約20分

0m 50m 100m 150m 200m 250m 300m



片道100円 バス運行!!
首里城下町線 (系統番号8番)